

指導計画例②

【参考】国立教育政策研究所 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料



「国立教育政策研究所 教育課程研究センター」
(<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>)

中学校（1年生）

- 1 単元名 球技：ゴール型（サッカー）
- 2 単元の目標

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性（や成り立ち）、技術の名称や行い方、（その運動に関連して高まる体力）（など）を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。
ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。 【知識及び技能】
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) （球技に積極的に取り組むとともに）、（フェアなプレイを守ろうとすること）、（作戦などについての話し合いに参加しようとする）、（一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする）、仲間の学習を援助しようとする（など）や、健康・安全に気を配ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

本例では、単元の目標は学習指導要領「2 内容」を踏まえ、第1学年及び第2学年の目標を全て記述した上で、本単元（サッカー）の目標を明示するため、他の単元で指導し評価する部分については、（ ）で示しています。
その他の示し方として、学習指導要領「2 内容」から必要な部分のみで示す方法や、学習指導要領に示されている3つの資質・能力に基づき身につけさせたい内容を示す方法があります。

- 3 指導にあたって

- (1) 運動の特性

良い、悪いといった状況ではなく、これまでの学習状況、事前調査（アンケート等）の結果などを示します。

- (2) 生徒について

- (3) 指導について（指導観）

本単元での目指す実現状況（指導観）や予定している学習過程などを示します。

- 4 単元の評価規準

ア) 知識・技能		イ) 思考・判断・表現	ウ) 主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、 <u>言ったり書き出したりしている。</u> ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身につけるためのポイントがあることについて、学習した <u>具体例を挙げている。</u>	○技能 ①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートを <u>することができる。</u> ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出す <u>ことができる。</u> ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つ <u>ことができる。</u>	①提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを <u>伝えている。</u> ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を <u>見つけている。</u> ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を <u>見つけている。</u>	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助し <u>ようとしている。</u> ②健康・安全に留意し <u>ている。</u>

【文末表記】

～具体例を挙げている。
～を言ったり書き出したりしている。

【文末表記】

～できる。

【文末表記】

～を伝えている。
～を見つけている。

【文末表記】

～しようとしている。
※健康・安全に関わるものは「～している。」

表の見出しは、「育成を目指す資質・能力の3つの柱」とし、それぞれに対応した評価規準と具体的指導内容について明記します。

5 具体的な指導内容と単元の評価規準（学習活動に即した評価規準）

知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
知識	技能		
<p>ゴール型球技は、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを打ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うことが楽しい運動であること。</p> <p>↓</p> <p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて言ったり書き出したりしている。</p> <p>ボール操作には、シュートやパス、ボールをキープする技術の名称があること。それらを身につけるポイントがあること。</p> <p>↓</p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身につけるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>ゴール方向に守備者のいない位置に移動した時にシュートを打つこと。</p> <p>↓</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをするができる。</p> <p>フリーの仲間を見付け、相手の動きに合わせてパスを送り出すこと。</p> <p>↓</p> <p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>ボール保持者とゴールが見える位置に移動し、ボールを受ける準備態勢をとること。</p> <p>↓</p> <p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p>	<p>成功例、つまずき例などの事例や、シュート、パス、キープのポイントを提示し、仲間の動きと比較し、伝えること。</p> <p>↓</p> <p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>活動時間の確保やグループの人間関係がよくなるといった目的を伝え、用具の準備や後片付け、記録や審判などの分担した役割における自身の活動の仕方を見付けること。</p> <p>↓</p> <p>②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>仲間の意見をしっかりと聞く、自身の意見を述べるなどの話し合いへのマナーを提示し、参加の仕方を見付けること。</p> <p>↓</p> <p>③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p>	<p>仲間の学習を援助することは、自己の能力を高めたり仲間との連帯感を高めて気持ちよく活動したりすることにつながるという目的に適した仲間との関わり方があること。</p> <p>↓</p> <p>①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>体調の変化などに気を配ること、ボールなどの用具の扱い方や、ゴールの設置状態、練習場所などの自己や仲間の安全に留意すること、技能の難易度や自己の体力や技能の程度に合った運動をすることが大切であること。</p> <p>↓</p> <p>②健康・安全に留意している。</p>

本例では、実際にどのような指導を行うのかを明示し、指導した内容を評価する際的评价規準を四角囲みの中に明示しています。

【当該単元における具体的な指導内容の明確化を図る】

単元の目標の実現には、具体的な指導を充実した上で、単元の評価規準（学習活動に即した評価規準）により評価を行うことが重要です。そのため、学習指導要領の記載等から、生徒の学習状況を実現するための具体的な指導内容を明確にします。

6 指導と評価の計画（全10時間）

単元の目標	知識及び技能	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や（成り立ち）、技術の名称や行い方、（その運動に関連して高まる体力）（など）を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。											
	思考力・判断力・表現力等	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。											
	学びに向かう力、人間性等	（球技に積極的に取り組むとともに）、（フェアなプレイを守ろうとすること）、（作戦などについての話し合いに参加しようとする）、（一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする）、仲間の学習を援助しようとする（など）や、健康・安全に気を配ることができるようにする。											
	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント	
学習の流れ	0	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動										<ul style="list-style-type: none"> ・ 三つの資質・能力の内 ・ 内容をバランスよく指導 ・ 動きの獲得を通して、 ・ 知識の大きな力を一層、実 ・ 感覚で用いるように知識を精 ・ 選択した上盤図の学習の学 ・ ゴール前の学習の攻 ・ ゴールを求め、人数、コ ・ レイの広さ、用具、夫 ・ ゲームを取り入れる。即 ・ 練習にゲームやアが学習の助 ・ うし質を高め、助言的 ・ 仲間と学習の具 ・ 質を高め、助言的 	
	10	オリエンテーション	ボール操作の反復練習										
20	シュート パス トラップ		空間に走り込むなどの動き ボールとゴール	課題の確認と解決の練習 ○ ボール操作 ○ 空間に走り込む ・ 課題伝達 ・ 役割見付ける	ゲームⅠの修正	最終リーグ戦Ⅱ	最終リーグ戦Ⅰ	単元のまとめ					
30	ボール慣れゲーム	シュートゲーム ゲーム記録の活用	グリッド突破ゲーム 仲間の即時の助言	簡易ゲームⅠ 人数・コート ・ ルールの簡易化									
40													
50		整理運動・学習の振り返り・次時の確認											
評価の機会	知	①	(②)	(②)		②						総括的評価	学習カード
	技			①		②	③						観察、記録
	思						②	①			③		学習カード、観察
	態		②		①								観察、学習カード
学習活動に即した評価規準	知	①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身につけるためのポイントがあることについて、学習し具体例を挙げている。											
	技	①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。											
	思	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。											
	態	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。											

【指導と評価の計画（10時間）を作成する】

単元の目標、内容、評価規準が具体化され、指導場面や評価機会が関連付けられた指導と評価の計画を作成します。その際、目標の実現に向けて、指導したことを評価すること、「努力を要する」状況と判断される生徒への指導の充実が速やかに図ることができるよう、評価の機会を適切に設定することなどに留意する必要があります。

7 本時の指導「サッカー」

(1) 本時のねらい

- ①得点しやすい空間に走り込むためのポイントを見付ける。
- ②得点しやすい空間にいる仲間にパスするためのポイントを見付ける。

(2) 本時の学習評価

- ・球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身につけるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 (知識・技能)
- ・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 (知識・技能)

(3) 展開 (5時間目 / 10時間中)

段階	学習内容・学習活動	教師の支援・指導上の留意点	評価規準・評価方法
はじめ (10分)	1 挨拶・出席確認。 2 本時のねらいの確認。 3 準備運動を行う。 4 ウォーミングアップをかねてボール操作の復習をする。(リフティング・ドリブル・パス)	・体調不良やケガをしている生徒がいないかを確認する。 ・本時のねらいを明確にし、生徒自身に課題を見つけさせる。 ・安全面の留意事項を確認する。 ・前時までに学習した内容を思い出しながら取り組ませる。	
なか 35分	得点しやすい空間へ走り込むためのポイントを見付ける		
	5 コーンをディフェンスに見立て、空いた空間へ走り込む動きと、走り込んだ味方へのパス練習 ○コーンをディフェンスに見立て、間をついてよりよいスペースに走り込む練習 ○3対2の攻撃側有利の状況で、空いたスペースに走り込む練習	・常に、空いている空間を探すことを意識させる。 ・自分が空いている空間に飛び込めそうなときはパスがもらえるように声を出させる。 ・自分以外の味方が動いた際に、どこへ移動すると良いかを考えさせる。 ・パスをするタイミングと場所を意識させる。	◎【評価】 (知)② 学習カード
	得点しやすい空間にいる仲間にパスするためのポイントを見付ける。		
	6 グリッド突破ゲームを行う ○最初は5対3で行う。 ○慣れてきたら5対4～5対5へと発展する。 7 学習カードへの記入 ○本時で学習した内容を記入する	・攻撃側、防御側ともに気付いたことを話し合えるようにインターバルを設ける。 ・気付いたことは積極的にアドバイスするように指導する。 ・空いた空間へ走り込むためのポイントを意識させる。 ・本時のねらいに応じた内容について記入させる。 ・自分だけでなく、仲間の良かった点についても記入させる。	◎【評価】 (技)② 観察・記録
まとめ (5分)	7 整理運動を行う。 8 本時の活動を振り返り、反省点及び次時の課題の確認。 9 挨拶	・体調不良やケガをしている生徒がいないかを確認する。 ・本時のねらいを確認し、個々に振り返らせ、発表させる。	

○学習内容をより効果的に学習させるための方法や発問等

○場の工夫や指導時の配慮事項
○技能のコツや努力を要する生徒に対する手立て等

○学習活動に対応させて記載
○評価方法…観察、ノート等